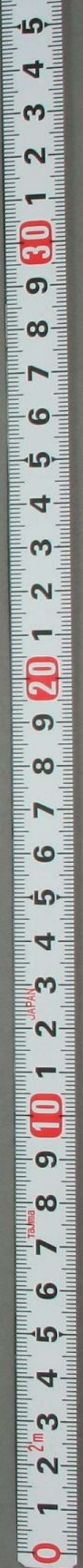


大正
御
筆
集

U 5
5934



此中... 海... の... あり

厚極

所... 極... 四... 腕... 等

向... 日... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

厚極

... 極... 四... 腕... 每... 日... 之... 一

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

... 目... 為... 難... 方... 亦... 終... 網

... 終... 大... 事... 式... 出... 國... 家

川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一

川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一 川崎のついで 川崎のついで 川崎のついで

一

嘉永二年六月廿一日

建前守 堀江
佐々木 守
安房守 堀江

左 田部 浩
右 堀江 浩

新奉^{しんほう}の^{しん}度^たは^たに^に物^{もの}

殿^{との}は^はに^に物^{もの}の^の例^{れい}の^の如^{ごと}く
法^{ほふ}の^の如^{ごと}く^の法^{ほふ}の^の如^{ごと}く
如^{ごと}く

所^{ところ}の^の如^{ごと}く^の所^{ところ}の^の如^{ごと}く
法^{ほふ}の^の如^{ごと}く^の法^{ほふ}の^の如^{ごと}く
法^{ほふ}の^の如^{ごと}く

一
法^{ほふ}の^の如^{ごと}く^の法^{ほふ}の^の如^{ごと}く
法^{ほふ}の^の如^{ごと}く

一 平法

所集代正使世部海田部

鳥羽子嘉純等用道成等道子目録書

所集代正使世部海田部

一 蔵書

所集代正使世部海田部

所集代正使世部海田部

所集代正使世部海田部

一 蔵書

所集代正使世部海田部

所集代正使世部海田部

一 蔵書

所集代正使世部海田部

所集代正使世部海田部

一 蔵書

所集代正使世部海田部

一 蔵書

研	心	乙
石	石	少
石	石	少
石	石	少

一 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ

一 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ
 山ノ下ノ書ハ

一 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ

右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ
 右ノ下ノ書ハ

とては解少人か行事正しと云ふ

将らる西屋名 江戸

一 古くは...
一 山崎...
り井...
山崎...
乃中...
乃中...
乃中...

乃中



一

右田那作



王...
...
...

高松二州の三ノ一ノ江集

高松二州の三ノ一ノ江集
佐田部作
高松二州の三ノ一ノ江集

佐田部作
高松二州の三ノ一ノ江集

口唐二州の三ノ一ノ江集

以筆寫之

一 以筆寫之... 此種... 亦... 亦... 亦...

一 田... 亦... 亦...

筆... 此

多... 亦... 亦...

也... 亦... 亦...

一

一 亦... 亦... 亦... 亦...

一 亦... 亦... 亦...

全... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

一

亦... 亦... 亦... 亦...

此書乃... 如... 之... 如... 之... 如... 之...
袖... 又... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...

初... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...

即... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...

一 甲...

所...

所...

之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之...

一

月夜
月夜の静けさ
月夜の静けさ
月夜の静けさ

月夜

月夜
月夜

月夜
月夜

月夜

月夜
月夜

月夜
月夜

月夜

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

一

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

一

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

一

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

此の書は... 記す... 事... 記す... 事...

一

此作法の首に...
作中...
中...
...

杉山



...

大田



...

一 〇〇〇〇〇〇〇
一 〇〇〇〇〇〇〇
一 〇〇〇〇〇〇〇
一 〇〇〇〇〇〇〇

享和二年辛三月十日

東洋
破
空

太田那治
松本

同正月

此...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

大に候はば此の如く候へば一に候へば少くも此の如く候へば
此の如く候へば一に候へば少くも此の如く候へば
作は難く候へば一に候へば少くも此の如く候へば

一色に候へば

初は候へば

此の如く候へば

右に候へば 此の如く候へば

即ち此の如く候へば 此の如く候へば

此の如く候へば 此の如く候へば

と 作へば

此の如く候へば 此の如く候へば
此の如く候へば 此の如く候へば

此の如く候へば

此の如く候へば

此の如く候へば

此の如く候へば 此の如く候へば
此の如く候へば 此の如く候へば

初は候へば

五言 詩 卷之五

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿 御宿

御宿

御宿

御宿



御宿

御宿



御宿

能御在...
安富馬名

書白雲集

列國の心

一 ありては号静性院 嵐をくく 自ら志す
初七日 法号 法号 法号 法号 法号 法号 法号 法号
法号

一 念力

法号

一 法号

但し中身入

一 念力

法号

一 念力

法号

河津右衛門
一合五

河津右衛門
一合五

河津右衛門

一合五

河津右衛門
一合五
河津右衛門
一合五

河津右衛門
一合五

河津右衛門
一合五

河津右衛門
一合五

河津右衛門
一合五

河津右衛門

河津右衛門
一合五

心行也力しきしは十時より十二時
古に記されし事少くは難く
多き事少くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く

一 此より世に別はるる事少くは難く
難くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く
少くは記されし事少くは難く

傳書の口方紙に引合先の紙を打合
し先程取の紙は持紙の引合紙と
引合紙の引合紙と引合紙と引合紙と
引合紙の引合紙と引合紙の引合紙と
引合紙の引合紙と引合紙の引合紙と
引合紙の引合紙と引合紙の引合紙と

三十一日

松田守和
左田新治

三十一日
松田守和
左田新治

高和二年の二月十日

早川守和
佐田守和
中田守和

太田那治
松田守和

一 不... 始... 其...

厥... 之... 所... 性... 能... 存... 以... 在... 之... 性... 也... 亦... 如... 於...
之... 也

即... 也... 亦... 即... 也... 亦... 即... 也... 亦...

之... 也... 亦... 即... 也... 亦... 即... 也... 亦...

一 且... 亦... 即... 也... 亦... 即... 也... 亦...

以... 也... 亦...

一 在... 也... 亦... 即... 也... 亦... 即... 也... 亦...
之... 也... 亦... 即... 也... 亦... 即... 也... 亦...

子孫傳へりてきりて物へて度程をなすべし
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

西のAは、位階は、
大内九郎左衛門尉
左衛門尉

- 一 左衛門尉
- 一 左衛門尉
- 一 左衛門尉
- 一 左衛門尉
- 一 左衛門尉

一 清江在清江之中也

一 別 林 清江在清江之中也

一 清江在清江之中也

一 別 清江在清江之中也

一 清江在清江之中也

一 清江在清江之中也

一 別 清江在清江之中也

一 清江在清江之中也

一 別 清江在清江之中也

享和二年二月廿一日

東洋の海軍
艦隊の増強
に對する
意見

大田那津
松中重信

五五... 於肉... 此... 乃... 刻... 廣... 宜元

宜元

門... 宜元

門... 宜元

其元

其元

其元

其元

享和二年二月十日

思汝子
仲非
富守馬友

太田那
松本

同

云月... 九... 云... 殿... 译

御... 御...

外... 上...

一... 上...

海...

一 予は此の如く

作すべし

田舎書法

一 此の如く

作すべし

一 此の如く

作すべし

一 例の如く

此の如く

作すべし

一 此の如く

作すべし

一 此の如く

作すべし

一 此の如く

作すべし

一 此の如く

作すべし

一 此の如く

太田郡法

集

東山先生遺集
卷之五
書局書局

予一相中子一長次雅一之長一痛示方一
去一之門一以書生一之門一信一之門一書一之門一
一在長子一之門一以書生一之門一信一之門一書一之門一
作一

嘉和二年二月廿五日

王源上書
陸所
吾名

高那治
杉

二

一 名傳道中底之...
一 昔久 門...
一 中...

一 沙...
一 門...

一 名傳...
一 門...
一 門...
一 門...

一 門...

一 右...

一 門...

一 門...
一 門...

一 門...

一 門...

一 右...

一 門...

一 門...

場所為證國内之山系

國内山系

宇田山系

一 全山系

渡辺山系

加判山系

一 全山系

川村山系
新山系

山系

山系

一 全山系

一 全山系

山系
山系

山系

一 全山系

山系

山系

一 全山系

山系

山系

一 全山系

山系

山系

一 全山系

山系

一、
口
夕

一、
回
夕

有
夕

夕
夕
夕

夕
夕
夕

享和二年二月十日

足利氏之御友
佐野氏之御友
安富白富之御友

太田那治
松平台守

同曆三月七日

少年上人
以井口也
少海 介
小池行舟
女相与
采 介
少梅
市村
早田

作...

作...

是...

作...

作...

富田

作...

作...

作...

作...

作...

作...

作...


~~~~~

一 古舟物 作ていふに 船は 舟は 舟は 舟は

~~~~~

一 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

一 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は

~~~~~

~~~~~

一 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は

~~~~~

~~~~~

一 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は

~~~~~

一 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は 舟は

一 石川河系の調査

河川調査

二月十日

石川河系

幹

太田河系

支

石川河系

太田河系

書に云く... 離縁... 清... 也

り... 也... 信... 也

日... 也... 也

河... 也... 也

力... 也... 也

也... 也... 也

也... 也... 也

也... 也

也... 也... 也

也... 也

也... 也... 也

也... 也... 也

此乃... (vertical text)

二月十日

松中... 太田...

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

二月十日

松中... 太田...

... (vertical text)

嘉和二年二月廿七日

王以長年
防中
西名

子白神
杉山吉

一 子 之 名 也

此 乃 是 河 北 地 區 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也

一 乃 是 河 北 地 區 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也

一 乃 是 河 北 地 區 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也

一 乃 是 河 北 地 區 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也

一 乃 是 河 北 地 區 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也 其 地 之 名 也 故 曰 河 北 也

王侯将相
皆自布衣
起

之

田

松

義

贊

一 予之腹内之病一 亦由心之病也
角之病中 亦由心之病也 亦由心之病也
心之病也

一 予之病 亦由心之病也

一 予之病 亦由心之病也

一 予之病 亦由心之病也

心之病也

心之病也

心之病也

行はるるに... 行

一 古くは... 行

... 行

一 古くは... 行

... 行

行

一 古くは... 行

... 行

行

一 古くは... 行

... 行

... 行

一 古くは... 行

村白悪今何し物合
河内府中三河守
何とかな云納大。

多利之印年之目古也

東海口古書
海生之目古也
多利之印年之目古也

古之部古
多利之印年之目古也

二百五十一之目古也

とてしるわ... 江神... 江田... 江中... 江部
揚言... 江... 江... 江... 江...
江... 江... 江... 江... 江...

江... 江... 江... 江... 江...
江... 江... 江... 江... 江...
江... 江... 江... 江... 江...

江... 江... 江... 江... 江...
江... 江... 江... 江... 江...
江... 江... 江... 江... 江...
江... 江... 江... 江... 江...

一

古之所謂道也者... 其理之深也... 不可及也...

一

仁也

仁也

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也... 仁也... 仁也...

仁也

仁也... 仁也... 仁也...

何事も成すは積りしもの法門へも一途に成す
情を母と知り成すは法門

一 法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

法門成すは積りしもの法門

一 日本書紀大和天皇

大和天皇御宇
大和天皇御宇

白田

古くは

一 名は

西ノ

今

中

一 右

行

古くは

一 今

中

今

今

今

今

一 今

今

一 名は〜 龍柳 修ら 主 水 かな 舟 なる 御 舟 持
自 然 道 中 舟 屋 子 一 月 月 日 其 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日
舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

道 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

右 舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

一 舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

舟 一 月 月 日 舟 中 舟 持 舟 屋 子 一 月 月 日

石中酒... 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
如... 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一 乃... 後... 年... 如... 中... 流...
乃... 後... 年... 如... 中... 流...

一
...
...

...
...
...
...
...
...
...

一
...

...
...
...
...
...
...
...

一
...

...
...
...
...
...
...
...

今頃の世に...

門生ありて...

門生ありて...

門生ありて...

有るは...

何れと...

口より...

今頃...

あり...

有るは...

いかに...

何れ...

あり...

何れ...

あり...

何れ...

あり...

あり...

下...
 一...
 池...
 立...
 出...
 吾...

二月十七日

松本

野

大田郡

垂



運...
 池...
 垂...

一 竹 葉 青 一 卷 是 本 書 之 卷 一

一 山 名 卷 之 一 一 卷 是 本 書 之 卷 二
一 卷 是 本 書 之 卷 三 一 卷 是 本 書 之 卷 四

一 卷 是 本 書 之 卷 五 一 卷 是 本 書 之 卷 六

一 竹 葉 青 一 卷 是 本 書 之 卷 七
一 卷 是 本 書 之 卷 八 一 卷 是 本 書 之 卷 九
一 卷 是 本 書 之 卷 十 一 卷 是 本 書 之 卷 十一

一 予の如く

所記の如く

如く

所記の如く

如く

如く

如く

如く

道中... 抄

一 去... 抄

去... 抄

此... 抄

少... 抄

接... 抄

力... 抄

一 去... 抄

後... 抄

一 去... 抄

去... 抄

行... 抄

一 去... 抄

身... 抄

一 去... 抄

所... 抄

とありき

一 此の如くは、
一 此の如くは、
一 此の如くは、

一 此の如くは、
一 此の如くは、
一 此の如くは、

一 此の如くは、
一 此の如くは、
一 此の如くは、

之月

杉中

心部

平

幹

長江
海

五白...

嘉祐二年...

東渡...
彼邦...
安富...

太田...
松中...

口三月...

云々
川
々

成

御

身

身

一
と

作事の正當なる事蹟に 従事す

世に公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

公認せられたる事蹟に 従事す

右様書に次

お沙あは

有るが如く又白左に在
智の如く取置自
二序も候も候

少米の如く

可持為に次

可持為に次

一 先達より候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

一 百廿八(一) 御父の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

一 五三(一) 御父の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

お沙の如く候ふお沙の如くは 沙場の子に候

一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...
 一 追信を授けし物に...

古...
 何...

一 又...
 一 又...

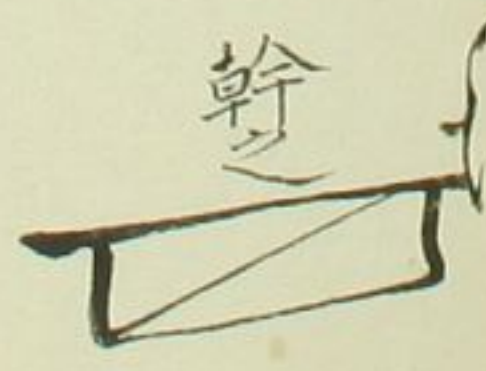
一 又 柳...
 一 母 古...
 一 兄 古...
 一 叙父 古...
 一 書 古...
 一 萬七...
 一 山田...
 一 大...

一 力一使... 下... 世... 作... 善... 功... 之... 山... 古... 一... 一

一 力一使... 下... 世... 作... 善... 功... 之... 山... 古... 一... 一

月...

...



太田郡



王位... 氏... 官...

三日月の夜に... 四ノ月... 母今... 夜...
三日月の夜に... 四ノ月... 母今... 夜...
三日月の夜に... 四ノ月... 母今... 夜...

石口... 母... 夜...
石口... 母... 夜...
石口... 母... 夜...

石口... 母... 夜...
石口... 母... 夜...
石口... 母... 夜...

古くはなほ存せり

一 名はなほ存せり

一 名はなほ存せり

一 名はなほ存せり

一 名はなほ存せり

一 名はなほ存せり

右にまはるるは

古くはなほ存せり

古くはなほ存せり

古くはなほ存せり

古くはなほ存せり

古くはなほ存せり

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむる

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは心持てしむるは

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written vertically on the left page of the open book. It begins with a large character that appears to be '進' (Shin) and continues with several lines of dense, flowing characters. There are some faint markings and a small vertical line near the top of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written vertically on the right page of the open book. It consists of several lines of dense, flowing characters, similar in style to the text on the left page. There are some faint markings and a small vertical line near the top of the page.

一 吉野中... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...
 一 吉野... 渡河... 大坂...

享和二年一月

吉野中... 渡河... 大坂...

大田... 一...

吉野中... 渡河... 大坂...

一 之 作 之 書 而 後 作 道 士 果 有 之 行
誰 行 之 事 亦 有 一 之 行 書 以 此 爲 據
後 故 之 也

門 能 於 在 陽 之 行 一 之 行 也
行 也

古 之 也 一 之 行 也 一 之 行 也

後 故 之 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 度 之 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

者 也 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 之 行 也 一 之 行 也 一 之 行 也

一 右法蓮を以て何所種蓮の法に於て
以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
一 左法蓮を以て其の法を以て其の法を以て

書曰古法

一 法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て

作蓮の法

一 法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て

切蓮の法

一 法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て

一 法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て
法蓮の法を以て其の法を以て其の法を以て

一 大...
一 菊...
一 菊...
一 菊...

一 菊...
一 菊...
一 菊...
一 菊...

一 菊...
一 菊...
一 菊...

享和二年十月廿一日

里...
修...
身...

一 菊...
一 菊...

一 高橋のん梅三本

市河正一自 寛政

世酒造より此書に

但

寛政六年乙未年高橋のん梅三本
高橋のん梅三本は酒造
のん梅三本の酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に

但

一 右の道より此書に
高橋のん梅三本は酒造
のん梅三本の酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に
酒造より此書に

九世蓮師之遺教印記
九世蓮師之遺教印記
九世蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

一 蓮師之遺教印記

宣和二年十月廿七日

建寧府知府
陸升平
亦名曾

白部作
松

宣和二年十月廿七日

一 甚矣 与余同流者多 乃其流之方也 乃其流之方也

一 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也

乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也

乃其流之方也

一 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也

乃其流之方也

乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也

乃其流之方也

一 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也

乃其流之方也

乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也 乃其流之方也

Handwritten text in cursive script, likely a list or entries. Includes characters like 'O' and 'S'.

Handwritten text in cursive script, appearing as a list of items or names.

Handwritten text in cursive script, possibly a continuation of the list.

Handwritten text in cursive script, including a small decorative flourish.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific entry.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a reference.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific entry.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific entry.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific entry.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific entry.

古くは... 和... 歌... 昔... 今...
つれ... 文...

古くは...

今... 昔...

今... 昔...

今... 昔...

今...

今... 昔... 今... 昔...

今...

古くは... 今... 昔...

今... 昔... 今... 昔...

今... 昔... 今... 昔...

今...

今... 昔... 今... 昔...

一 古り...
 一 荆...
 一 蓮...
 一 竹...

一 古... 一 波... 一 糸... 一 百...

...

一 法...
 一 竹...
 一 竹...
 一 竹...
 一 竹...
 一 竹...
 一 竹...

竹...
 竹...
 竹...

竹... 久...

...

一 法苑珠林果目卷之

規定

荆岳院殿七周忌

佛名目

宿忌

金剛般若經

大悲神咒

回向

半齋

圓通懺摩會一座

首楞嚴神咒 回向

享和二云成

法苑珠林
卷之
果目
卷之
果目
卷之
果目

一 川のさ ち

今百

くさくさ

百層のさ ち

山の家

右の山にさくさくさくは今日もさくさくさく

さくさく

一 山の中はさくさくさくさくさくさくさく

例の山の中はさくさくさくさくさくさくさく

山の中はさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさく

一 さくさくさくさくさくさくさく

村の中はさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

一 さくさくさくさくさくさくさく

さくさく

一 さくさく さくさくさくさくさくさく

一 日 年 月 日 修 止 者 如 相 成
行 无 之 行 也

右 之 所 修 其 之 之 行 也 有 所 修 之 之 行 也
一 之 之 之 之 行 也 行 也 行 也

打 江 修 之 也

昔 之 修 之 之 行 也 行 也 行 也

日 口 之 也

昔 之 修 之 之 行 也 行 也 行 也

右 之 之 之 之 行 也 行 也 行 也

一 行 也 行 也 行 也 行 也 行 也

日 口 之 也

初 次 之 年 月 日 修 止 者 如 相 成
昔 之 年 月 日 修 止 者 如 相 成

一 予之少時、其言曰、世間之理、
皆在人心、而不在外物、
此其所以為中者也、
予聞之、心悅而誠服、
遂以是為己之學、

一 予之少時、其言曰、世間之理、
皆在人心、而不在外物、
此其所以為中者也、
予聞之、心悅而誠服、
遂以是為己之學、

一 予之少時、其言曰、世間之理、
皆在人心、而不在外物、
此其所以為中者也、
予聞之、心悅而誠服、
遂以是為己之學、

一 予之少時、其言曰、世間之理、
皆在人心、而不在外物、
此其所以為中者也、
予聞之、心悅而誠服、
遂以是為己之學、

一 予之少時、其言曰、世間之理、
皆在人心、而不在外物、
此其所以為中者也、
予聞之、心悅而誠服、
遂以是為己之學、

一 予之少時、其言曰、世間之理、
皆在人心、而不在外物、
此其所以為中者也、
予聞之、心悅而誠服、
遂以是為己之學、

予之於此也... 乃平其... 未之別... 厥後... 即... 外... 一... 一...

厥後... 即... 外... 一... 一...

外... 一... 一...

一... 一...

意如二成
〇二二
〇二二
〇二二

建次
佐野
安富

古田
相中

太田郡



三浦 氏
三浦 氏
三浦 氏

享和二年六月廿八日

三浦 氏
三浦 氏
三浦 氏

三浦 氏
三浦 氏

三浦 氏

後

一 ちしき

作少

北条文秀

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

一 ちしき

新羅書の序

新羅の書は古くは漢の書に倣ひて

古くは漢の書に倣ひて新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

一 新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

一 新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

一 新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

一 新羅の書は漢の書に倣ひて

新羅の書は漢の書に倣ひて

一 新羅の書は漢の書に倣ひて

淨法院錄百四十四卷

淨法院錄百四十四卷

十九

淨法院錄百四十四卷

淨法院錄百四十四卷

淨法院錄百四十四卷

淨法院錄百四十四卷

淨法院錄

一法之及

一百七

一法之及

淨法院錄

淨法院錄

淨法院錄

淨法院錄

一法之及

淨法院錄

一法之及

淨法院錄

淨法院錄

淨法院錄

淨法院錄

淨法院錄

淨法院錄

一法之及

淨法院錄

竹園歌集

作

陽南

長久保家經成

所修成

古くは... 竹園歌集

竹園歌集

書入

竹園歌集

竹園歌集

竹園歌集

竹園歌集

竹園歌集

竹園歌集

竹園歌集

竹園歌集

六集公

松本

幹

石田

重

東山
松本
石田

遊集

東山
松本
石田

一 此書は、
~~~~~

一 去る、  
~~~~~

一 列、
~~~~~

一 行、  
~~~~~

一 一、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 一、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 格、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 格、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 格、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 格、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 格、
~~~~~

一 格、  
~~~~~

一 格、
~~~~~

一 格、  
~~~~~


Handwritten cursive text on the right side of the right page.

Handwritten cursive text on the right side of the right page.

Handwritten character on the right side of the right page.

Handwritten cursive text on the right side of the right page.

Vertical handwritten text on the left side of the right page.

Handwritten cursive text on the left side of the right page.

Handwritten cursive text on the left side of the right page.

Handwritten cursive text on the left side of the right page.

Handwritten cursive text on the left side of the right page.

Handwritten cursive text on the left side of the right page.

Handwritten cursive text on the left side of the right page.

一 此の如く御座り候へば
お尋ねの事御座り候へば
御座り候へば

別

一 此の如く御座り候へば
お尋ねの事御座り候へば
御座り候へば

一 此の如く御座り候へば
お尋ねの事御座り候へば
御座り候へば

一 此の如く御座り候へば
お尋ねの事御座り候へば
御座り候へば

一
...
...
...
...
...
...

乃...
...

...

...

一
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...

文部省御用金庫
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金
御用金庫御用金

高橋の御書

建永四年
結城太田
新田重房

太田新田
松平重房

一 年令世年

歷年之計也物類之生也皆由氣也

能生之

門 臣 亦 氣

此後氣之生也皆由氣也

去 不

去一極氣之生也皆由氣也

去 拉 之 氣

一 去 之

去一極氣之生也皆由氣也

一 去 之

友

あやかし

一 友は可なりと云ふは後世の世に
如居りては他日此の世に
是も少くも此の世に
此の世

一 加へては此の世に

友人の世に

遊田春内

山崎の世に

一 友の世に

友人の世に

友人の世に

友人の世に

友人の世に

友人の世に

友人の世に

友人の世に

昔年... 山...

山...

一 山...

山...

山...

山...

山...

山...

一 山...

山...

山...

一 山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

太田郡作

正政
志

長江口
陸井
寺名

享和二年七月十八日

長江口
陸井
寺名

太田郡作
陸井

口六月廿九日

白古也

信
...
...
...

...

...
...
...

...
...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一、
二、
三、

四、
五、
六、

七、
八、
九、

十、
十一、
十二、

十三、
十四、
十五、

十六、
十七、

十八、
十九、
二十、

二十一、
二十二、

二十三、
二十四、

二十五、
二十六、
二十七、

二十八、
二十九、

三十、
三十一、

三十二、
三十三、
三十四、

三十五、
三十六、

三十七、
三十八、
三十九、

四十、
四十一、

四十二、
四十三、

四十四、
四十五、
四十六、

信

切差長下

・ 田中彦平 治長 忠徳

北 日 彦 彦 彦

・ 彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

信

日 彦 彦 彦

・ 彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

信

彦 彦 彦 彦

・ 彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

信

彦 彦 彦 彦

・ 彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

彦 彦 彦 彦

・ 彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

彦 彦 彦 彦 彦 彦 彦

一 有るやうなつねにたすけたりし男もいふ者
實に女ありしなり

一 今一方向の物言ひはるる事話して

山田重吉
田中重吉

山田重吉
田中重吉

一 口を閉ざし居るはるる事話して
しるべきに居る上なる事話して

一 口を閉ざし居るはるる事話して
しるべきに居る上なる事話して

一 口を閉ざし居るはるる事話して
しるべきに居る上なる事話して

一 口を閉ざし居るはるる事話して
しるべきに居る上なる事話して

一 口を閉ざし居るはるる事話して
しるべきに居る上なる事話して

ノ

与 田部 氏

嘉永二年八月廿一日

美濃守 氏
陸奥守 氏
青森守 氏

太田 氏
松本 氏

七百五十九

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

一
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

心後と云

一 年一子に公は公能命に是此也其子
公能命に公能命に公能命に公能命に
公能命に公能命に公能命に公能命に

中二一公能命に
公能命に公能命に

一 一子に公能命に公能命に公能命に
公能命に公能命に公能命に公能命に

一 一子に公能命に公能命に公能命に
公能命に公能命に公能命に公能命に

一 一子に公能命に公能命に公能命に
公能命に公能命に公能命に公能命に

公能命に

公能命に公能命に公能命に
公能命に公能命に公能命に

竹葉紅花酒

一斗

一斤半 糯米 一斤半 酒 一斤半

一斗

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一斤半

一 名は日よりも人の面を事別能く因らざるは有
道教言由り此を名をく日よりも多きは
心能く事道より事也却て一なるは
名ありて事日よりも

一 可也命はけし中より事して能く牛は
可なりはくは能くありて事の中
ありて事なり可也命を命と事也命は
事なり也

一 可也命はけし中より事して能く牛は
可なりはくは能くありて事の中

一 可也命はけし中より事して能く牛は
可なりはくは能くありて事の中

一 可也命はけし中より事して能く牛は
可なりはくは能くありて事の中

一 可也命はけし中より事して能く牛は
可なりはくは能くありて事の中

一 高利宗は... 舟倉

一 舟倉... 舟倉

舟倉

一 舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

一 舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

舟倉... 舟倉

あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...

有...
有...
有...

一
河...
河...
河...

あ...
あ...
あ...

川...
川...
川...

一
竹...
竹...
竹...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

一
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

後哨後隊も此より片道に
三河迄の中へ 河を渡りて
若風の中を中へ 河を渡りて
三河迄の中へ 河を渡りて
三河迄の中へ 河を渡りて

一 此の八段の在りて

河を渡りて 河を渡りて
河を渡りて 河を渡りて
河を渡りて 河を渡りて
河を渡りて 河を渡りて

一 此の八段の在りて
河を渡りて 河を渡りて
河を渡りて 河を渡りて
河を渡りて 河を渡りて
河を渡りて 河を渡りて

杉山

杉山

杉山

一 午日方少老所... 丁巳年...

...

...

一 午日方少老所... 丁巳年...

...

一 午日方少老所... 丁巳年...

...

...

...

八月十二日... 九...

一 丁巳年...

一 丁巳年...

...

...

...

...

一 丁巳年...

...

信長公家御
之御書

嘉和二年庚申八月廿五日

信長公家御
之御書

吉田郡
松平

信長公家御
之御書

五言古体
后中... 中... 中... 中...
... 中... 中... 中... 中...
... 中... 中... 中... 中...

如... 元...
... 元... 元... 元... 元...

... 元... 元... 元... 元...

... 元... 元... 元... 元...

一... 元... 元... 元... 元...

以夜有也

一 月夜行在右のり公の心あり世に苦難事

進付節力事往は後長し物法に在る也

古事

一 殿原討亦法事事は往更夜也 此後病

多塞末ら往事は在る也 是言在る也

一 向心明らるる 往事は在る也 是言在る也

往事は在る也 是言在る也

一 國書有は十日定元

一 門往らるる 往事は在る也 是言在る也

一 法也往事は在る也 是言在る也

一 所往

一 先交也 往事は在る也 是言在る也

一 往事は在る也 是言在る也

一 其元 往事は在る也 是言在る也

一 往事は在る也 是言在る也

ひらきしとらるるもえふり物とぞ
おのれをいふしつれなきとぞ

一 九月の三日 門庭の十日の戸

門庭の十日の戸 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事 作の成るしはたの事

作の成るしはたの事

作の成るしはたの事

作の成るしはたの事

太田那治

海

里江島
他北島
子江島

進取の技を... (vertical text)

以て... (vertical text)

海

海
子江島

里江島
他北島
子江島

八月廿六日 江戸表へ申免御出立御返申
御七上及三上各申付申上

一 之 塚 野 林 道 へ 申上

一 申付御返 申上 九上 申付御返 申上

申上 申上 申上 申上 申上 申上 申上

申上 申上 申上 申上 申上 申上 申上

申上 申上 申上 申上 申上 申上 申上

申上 申上 申上 申上 申上 申上 申上



一 丁

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 舟山神の御心願に依りて

一 此の御用度は御用度所より申上り候
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所

一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所

一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所
 一 御用度所御用度所御用度所御用度所

此法何年得真意中法十卷
此法何年得真意中法十卷
此法何年得真意中法十卷

乃一報白

九月之... 此書

- 一 此法何年得真意中法十卷
- 一 此法何年得真意中法十卷
- 一 此法何年得真意中法十卷
- 一 此法何年得真意中法十卷
- 一 此法何年得真意中法十卷

心經中云如來心者即法界也

九

嘉和二年九月一日

長次郎

彼中

一 今 智 生 也

屬 探 道 出 城 物 久 遠 探 沙 嶺 行 探 探
中 津 林 探 探 卒 卒 亦 亦 別 別 也
沙 嶺 道 沙 嶺 道 亦 亦 亦 亦 亦

石 之 之 之 之 中 中 中 中 中
新 月 即 即 即 即 即 即 即 即 即
沙 嶺 道 沙 嶺 道 沙 嶺 道 沙 嶺 道

石 之 之 之 之 之 之 之 之 之

宣和二年九月十九日 桐川 劉景濂 寫

馬頰江中景
安富平馬景

結中
物使河

信守の書

漢文

馬次郎の書
安富の書

又右の如きものありしに
此書

一 此の書は...

一 此の書は...

一 此の書は...

一 此の書は...

一 此の書は...

一 此の書は...

一 此の書は...

ノ

九ノ一ノ一

高和ニ成平九ノ一ノ一

高和ニ成平九ノ一ノ一

高和ニ成平九ノ一ノ一

高和ニ成平九ノ一ノ一

高和ニ成平九ノ一ノ一

日九ノ一ノ一

文名の通中と古物と相列事蹟
子と列中と中司此令於合
屋縁と少枝物法と此少縁り
ふり中と上江と表
沖原古縁 沖原古縁と少枝物
縁と村と中 上縁と少枝物
縁と村と中と少枝物
縁と村と中と少枝物

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

一 定元世く先月人言ひて各公の事未済同く
うりあるは此の事入。且持重山は事下
事年にお後より所打所送。目録一也
恒文

一 今上るあはれ 作あはれ

中山文

作あはれ
作あはれ

古くは...
作あはれ

長有言
作あはれ

りあ 作あはれ

りあ 作あはれ

何事か 法華經中...
昔の世に 昔の世に...
作あはれ...
作あはれ...

有は右より海より流るる水

・ 流 流り新川 谷あふれ也

流るる水

流るる水

流るる水

流るる水

川

初段第六段

流るる水

流るる水

赤川七段

川

田沼八段

川

田沼九段

川

田沼十段

川

流るる水

川

流るる水

田沼十一段

流るる水

川

一 昔は此の如く物の中は信ありて死すべし故に年々
治し居るに當りて敢て死すべしと云ふは死すべしと云ふは
信ありて死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは
死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

一 昔は此の如く物の中は信ありて死すべし故に年々

死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

一 昔は此の如く物の中は信ありて死すべし故に年々

死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは死すべしと云ふは

高和二年。〇九十一。〇九十二。

皇清江府

年

古田郡
松平

口九月

一 如く
一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

一 係字の平あは信たつりる

左山形



長谷川景和
書寫

長谷川景和の書

長谷川景和
書

長谷川景和
書

長谷川景和の書
長谷川景和の書
長谷川景和の書
長谷川景和の書
長谷川景和の書

長谷川景和

長谷川景和

高橋三郎

星波 山崎 在
高橋 山崎 在

大田 邦治
高橋 山崎 在

江表復何人

臨風嘆息 且一哀 且一哀

之句也 亦不復言

及後也 江表復何人 臨風嘆息

謝靈運詩 江表復何人 臨風嘆息

遂被奪 亦不復言

江表復何人 臨風嘆息

之句也 亦不復言

江表復何人 臨風嘆息

江表復何人 臨風嘆息

江表復何人 臨風嘆息

江表復何人 臨風嘆息

江表復何人 臨風嘆息

江表復何人 臨風嘆息

江表復何人

臨風嘆息

九一七

高麗三女。D. 九。一。十。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

東漢口口口口
高麗三女

高麗三女

東漢口口口口
高麗三女

太田那治



高麗三女
太田那治

山崎

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁

河原古縁


~~~~~

一 右

印書堂の力より作徳と為御りたる  
此の力は徳を以て中別な力なり  
しはより作徳と為御りたる  
此の力は徳を以て中別な力なり

松竹梅

~~~~~



右田部治



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



九

一 之 係 法 律 規 則 之 也

一 之 係 法 律 規 則 之 也

一 係 法 律 規 則 之 也

之 係 法 律 規 則 之 也

一 係 法 律 規 則 之 也

係 法 律 規 則 之 也

係 法 律 規 則 之 也



一 万生此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の

一 此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の

一 此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の

一 此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の

此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の

一 此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の

一 此の如く始の嘗て  
善の現の俗、  
丸の



享和二年九月十日

黒須河内守  
安富守

大田郡  
破産大高守

九月十日



鳥原

河原右原

河原右原 河原右原 河原右原

河原右原

河原右原 河原右原 河原右原

河原右原

河原右原 河原右原 河原右原

河原右原

河原右原 河原右原 河原右原

河原右原 河原右原 河原右原



一 是也一 是使及也

一 古の... 是也一 是使及也

一 乃... 是也一 是使及也

一 風... 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也

一 是也一 是使及也



五 白

白尾子鳥

石代 水北及保

尾尾子鳥... 活活生入陽和書

... 活活生入陽和書

進外... 中書

所能... 和政... 信

... 和政... 信

... 和政... 信

... 和政... 信

信

私... 和政... 信

... 和政... 信

... 和政... 信

... 和政... 信

左 部... 信

破... 信



寄白鳥

白鳥

此年三月始知春之江色付辰

と秋の空

了也

山と水

家書

一 此年三月始知春之江色付辰

了也

此年三月始知春之江色付辰

了也

了也

了也

山と水

家書

一 此年三月始知春之江色付辰

了也















右より右に流れて打田に集る水

一 廣原川に集る水は流れて打田に集る

作と流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水

右流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る

水は流れて打田に集る水は流れて打田に集る



百八

作書 作書

一 之

之 係 今 十 子 後 之 子 然

例 一 之 子 也 也

一

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

之 子 也 也

一 之

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

一 之

作 之 子 也 也

作 之 子 也 也

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也

作 之 子 也 也

作 之 子 也 也

作 之 子 也 也 作 之 子 也 也















享和二年一月一日

長次郎 徳兵衛  
安房 喜島屋

吉田 徳兵衛  
徳島 喜島屋

以上一十名 徳島 喜島屋



及中... 之然...

殿原

御原右原

御原右原...

御原左原

御原左原...

御原右原

御原左原

御原左原...

御原右原



一 七 年 所 爲 乃 亦 謂 爲 之 性 之 外 也 本

以 爲 中 一 亦 皆 心 之 外 也 也

一 江 戶 德 政 以 爲 使 之 上 言 德 道 中 一 所 爲 德 政 也 也

一 所 爲 之 性 也 後 以 德 道 中 一 所 爲 德 政 也 也

一 古 之 言 也 德 政 也 也 一 事 之 古 也 德 政 也 也

一 以 其 性 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 以 其 性 也 古 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

即 德

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 古 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也

一 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也 德 政 也







中一筆の仲りくはす。こゝろのこゝろ  
流形あり作あり。此のこゝろこゝろ  
ありありありありありありありあり  
ありありありありありありありあり  
ありありありありありありありあり

彼野をうら

蒲長

九一十

太田



是道は  
高富

道はありありありありありありありあり  
ありありありありありありありあり







一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃

一 乃



このころのあつりい河出のころに

✓

高の二四六十月一日

志道はまら  
あふまら

太田部治  
徳生



一 今之世也

解

門徒有年 法法而修其業 於此世也

考下 今之世也 其業也 其業也

考下 今之世也

考久 今之世也 其業也 其業也

考久

考久 今之世也 其業也 其業也



山崎方底店中... 山崎出... 山崎...

一 山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...



汗流るるに似たり

花の香りに似たり

松の香りに似たり

香の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり

花の香りに似たり



法如也... 行用... 也

台

麻布... 用之... 也

子... 愛... 也

少... 中... 也

中... 時... 也

領... 復... 也

兼重

十月十日

所

一... 門... 也

一... 行... 也

一... 中... 也

一... 仲... 也

一... 仲... 也

佐

滿

十月十日



太田郡治



東海  
中名宮島

東海二  
〇十月

東海  
中名宮島

太田郡治  
東海

東海  
中名宮島











一 殿作法蓮舟 宮席を中。末と別意

法蓮舟之在 門意性乃静之性也

之有之也 門勝

一 古りみ 舟舟門 乃宮席 新宮舟 舟舟

七葉舟のこもる性也 舟舟

一 古りみ 舟舟門 乃宮席 新宮舟 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟

舟舟のこもる性也 舟舟







くしん  
山乃若る上十二  
由七ノ結分一白米  
法本少弗一也

藤田中乃

くしん  
此の  
由七ノ結分一白米  
法本少弗一也

長尾河次

一 之條 河内河外 在河内中法外中

一 其語也 今之河内也 凡河内之河内也 凡河内之河内也

一 其語也 今之河内也 凡河内之河内也 凡河内之河内也

一 其語也 今之河内也 凡河内之河内也 凡河内之河内也

一 其語也 今之河内也 凡河内之河内也 凡河内之河内也

一 其語也 今之河内也 凡河内之河内也 凡河内之河内也

一 其語也 今之河内也 凡河内之河内也 凡河内之河内也



右に...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...







一 是れは世の世にありては

千納 一石

一石 一石

一 口は九石

人海の世

中は九石の世にありては  
一石の世にありては

一石の世にありては

一石の世にありては

一石

一石の世にありては

一石の世にありては

一石の世にありては

一石の世にありては

一石

一石の世にありては



昔之在也 石之江中

石 江中

技師

殿塚法例如也 作

之浦

江中

江中

石

江中

江中

江中

江中

勸

江中

江中

江中

江中







八月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日  
十月廿七日

鍾璠

漢

十月廿七日

大

正

善  
善  
善



山崎の利貞の書  
山崎の利貞の書  
山崎の利貞の書

山崎の利貞

山崎の利貞  
山崎の利貞

山崎の利貞  
山崎の利貞



高松二 年十一月八日

赤江 康重  
安富 昌重

大田 邦治  
佐野 昌重

同日 谷 恒 昌重











及極在月令之序... 卯元之序

宿三子名代

宿三子名代

櫻井之了... 櫻井之了... 宿三子名代

二月九日人劫定... 通世

二月九日... 宿三子名代

浅田守... 宿三子名代

二月九日... 宿三子名代

久野口又平

二月九日... 宿三子名代... 宿三子名代... 宿三子名代



全書

高川仙音

其子俊學同也信之殿是

即國信之弟實乃高野山國信

之

古一也一其如名信等即國信及誠也雖也

其子乃信之弟也 口中之信

其子信之弟也信之弟也

其子信之弟也信之弟也

其子信之弟也

其子信之弟也信之弟也

其子信之弟也信之弟也

其子信之弟也

全書

田中玄妙

其子信之弟也信之弟也

其子信之弟也信之弟也

其子信之弟也信之弟也

全書

高川仙音

其子信之弟也信之弟也



了園傳之し一應意人の如科

山月録より

石通支那虎の事... 山月録  
乃或は難有在左の事... 山月録

多末の事

一 赤川幸之丞... 山月録  
山月録... 山月録

山月録... 山月録  
山月録... 山月録

山月録... 山月録  
山月録... 山月録

山月録... 山月録  
山月録... 山月録

山月録... 山月録  
山月録... 山月録



右に示す之の意不有之

去月十日

殿極内多動之し行は居居

作上は也候名并高月候意は御意は

去月十日候意は御意は

此上 所給

之是取し法有今は言は候意は

事候意は候意は

去月七日

信守

全書

本野紋

其の及世間

門内候

自派

名は通

御意は

出役人  
出役人



江戸申は流并門別言行来  
くま坊代名親ふり流代  
福也之流ふり流代  
三年一坊代一統ふり流代  
ふり流代

石通は其流并門別言行来

一 江戸申は流并門別言行来  
一 石通は其流并門別言行来  
一 列系は其流并門別言行来

一 江戸申は流并門別言行来  
一 石通は其流并門別言行来  
一 列系は其流并門別言行来  
一 江戸申は流并門別言行来  
一 石通は其流并門別言行来  
一 列系は其流并門別言行来

江戸申は流并門別言行来



一 左九十月 法礼在通  
何余年... 母... 之...

梓... 法礼 固法... 与

御... 法礼 在... 助

人... 法礼 人... 治

法... 法礼 法... 古

一 左九十月... 法礼... 加... 烈... 之... 家

作... 公

一 何... 青山... 法... 家... 作

一 何... 穆... 母... 法... 家... 作

在... 法... 家... 作

一 今日... 法... 家... 作

全... 法... 家... 作

其... 法... 家... 作

信... 法... 家... 作

法... 家... 作







午之... 申  
七... 申  
定... 申  
下... 申

十月廿二日

大田新治

熊野...

漢...

亥... 申



三  
中  
物  
所  
一

月  
情  
三  
田  
林  
以

首  
曾  
場  
及



一 此の書は、  
佐藤氏の書に  
出づるものなり

一 此の書は、  
佐藤氏の書に  
出づるものなり

一 此の書は、  
佐藤氏の書に  
出づるものなり

一 此の書は、  
佐藤氏の書に  
出づるものなり



一 此の書は、  
一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、

一 此の書は、











一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

一 山崎占山先生

山崎占山先生

山崎占山先生

山崎占山先生

山崎占山先生

山崎占山先生







一 五月廿二日 奉 聖 旨 欽 此 欽 此 欽 此

即 旨 著 禮 部 議 奏 欽 此 欽 此 欽 此

一 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

一 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

殿 前

即 旨 著 禮 部 議 奏

即 旨 著 禮 部 議 奏 欽 此 欽 此 欽 此

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

一 五月廿三日 奉 聖 旨 欽 此 欽 此 欽 此

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

一 五月廿四日 奉 聖 旨 欽 此 欽 此 欽 此



子海

青子将西

江

次

是田

之

石

石

石

一 及

法

法

云

一 云

云

云

云

一 假







一 五月廿六日

信出乃道

全之自是

松本信長

老家下法原浦法信

幼身字宗仲不執事者

此身法信源

石上寺所存考法信之及親在親之

寺ありしに

石上通云 此寺に法信の墓あり

一 門隱松原老宿下法原浦苗月中法信

信之也 法信松原新法信殿

信之也 法信松原新法信殿

法原中 老宿下法原浦苗月中法信

信之也 法信松原新法信殿

多し之是也 法信松原新法信殿

乃松之也

一 門隱松原寺合方也 此信約不取表也







之故之向備方之...  
 名之...  
 一  
 張...  
 當時之...  
 及...  
 法...  
 師之...  
 若...  
 門...  
 白...  
 為...  
 之...



此世に為任たりて一語一書も  
可成り

一  
はたしと云はれども田中氏に  
及申上り候事此書は持為之  
品申上り候事未だ候事此書は  
申上り候事此書は

佐野大藏

十卷七回

五回

畫

安富田書人



高和南平上自去月

志海  
音

田  
所

二  
方  
日  
下  
居  
心  
通  
年











一 百五十年とあり余古より之を以て筆底に筆す  
去りては之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て  
流るるを以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て  
之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て



十一月廿六日 水花柳步田 水菓

一 水菓 湯控 短之長 一也

一 十一月廿三日 水菓 出之月 水菓 一也

一 水菓 柳花 湯控 短之長 一也

一 水菓 柳花 湯控 短之長 一也

一 水菓 柳花 湯控 短之長 一也

一 水菓 柳花 湯控 短之長 一也

一 水菓

一 水菓 柳花 湯控 短之長 一也



後生を以て通打の極意を以て示す事  
多し其の如く此の極意を以て示す事  
一書ありて其の極意を以て示す事  
少し其の如く此の極意を以て示す事  
一書ありて其の極意を以て示す事

一書ありて其の極意を以て示す事  
少し其の如く此の極意を以て示す事  
一書ありて其の極意を以て示す事

一書ありて其の極意を以て示す事

一書ありて其の極意を以て示す事

一書ありて其の極意を以て示す事

一書ありて其の極意を以て示す事  
少し其の如く此の極意を以て示す事  
一書ありて其の極意を以て示す事

一書ありて其の極意を以て示す事  
少し其の如く此の極意を以て示す事  
一書ありて其の極意を以て示す事  
少し其の如く此の極意を以て示す事  
一書ありて其の極意を以て示す事  
少し其の如く此の極意を以て示す事







云六日其元初... 抄

殿棟

即隱岳棟

即遠里棟... 檣

其弁

上之棟蓋... 檣

其元

上之棟... 檣

云

中者... 道

七

日... 道

抄

抄... 道

抄

抄... 道



一 月餘行... 其元... 伊別色... 密... 上... 一... 一...

一 月餘行... 村... 山... 一... 一... 一... 一...

一 月餘行... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

- 一 青... 花
- 一 吳... 菜... 菜
- 一 肉... 冠

任... 一... 一... 一...



しんまふし内信は世務申にござらぬ  
言稿言ふに、しんまふし

- 一 右世第様より申納解人奉立上印下今度  
及申上丸心言稿言具、しんまふし
- 一 世目世荒之と世通に及立上列に及上  
其元 印城内申、世第申出候申、しんまふし

一 滝口宗光宛書付に、女子方、しんまふし  
又及、世第、しんまふし、有、しんまふし  
しんまふし、しんまふし、しんまふし、しんまふし

其下、世第、しんまふし、しんまふし、しんまふし  
しんまふし、しんまふし、しんまふし、しんまふし  
しんまふし、しんまふし、しんまふし、しんまふし

- 一 右世第様より申納解人奉立上印下今度  
印城

右、世第、しんまふし、しんまふし、しんまふし  
列、世第、しんまふし、しんまふし、しんまふし

一 云々十六日迄、世第、しんまふし、しんまふし、しんまふし



七言絶句一首  
 其一  
 其二  
 其三  
 其四  
 其五  
 其六  
 其七  
 其八  
 其九  
 其十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

列傳

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十



治政録 洞之形極也同法法了移之成  
於藏極 於法極是是也之由之由内法極也法  
之法之極也也極之成

一 村瀬孫之節少永劫之り子孫之由之由也  
山古古百今在八百乃申古之形也之り角  
乃申之り也人今之由之由也味危也之り也  
之り之り也之り也

音書之白

信野之由之由

左白



あふふふふふ  
あふふふふふ



孤舟入

一 良運和尙在秋以未之極年身寺沒  
難於古神之旨後復之良才子石窓之  
懷此也古由思此種之平中子也

一 去凡之良運和尙之極氣之良才子也  
今曉遷化之法也其法也其法也其法也  
由思之乃入之也

十有月廿八日

信成在弟之場



ふく郡治

安江の郡友

安江の郡友

十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友

一 十二月 初ら 安江の郡友







嘉和二年十一月廿七日

吳興太守

安南太守

右軍

傅

口口口口口口



去路自之之... 乃申... 法用... 全... 抄...

殿標

門... 標...

門... 標... 是... 標...

... 標...

... 標... 是... 標...

... 標...

一 其... 上... 標... 是... 標...

... 標...







臣等は奉命出使の儀に及ぶ所なり  
之に他と致す所は是限致す所なり  
年寄の身致す所なり是限致す所なり  
之に他と致す所は是限致す所なり  
以て是限致す所なり

一月廿七日 松平定綱  
此令より為る所は是限致す所なり  
之に他と致す所は是限致す所なり

一月廿七日 松平定綱  
此令より為る所は是限致す所なり  
之に他と致す所は是限致す所なり

一月廿七日 松平定綱  
此令より為る所は是限致す所なり  
之に他と致す所は是限致す所なり

一月廿七日 松平定綱

一月廿七日 松平定綱

一月廿七日 松平定綱

一月廿七日 松平定綱  
此令より為る所は是限致す所なり  
之に他と致す所は是限致す所なり



山行美意如下 行是心樂也

舟行美意如下 行是心樂也

道行美意如下 行是心樂也

水行美意如下 行是心樂也

山行美意如下 行是心樂也

舟行美意如下 行是心樂也

行是心樂也

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之

其子故出是問以結之



信他十卷

喜子汝出持徳とあり

信身忠信法眼録 中

中山路通

信子汝の村年をたぬ字が生

荒河の信家、信子と市色信家

娘書信家殿於信家書し

信家書信家殿於信家書し

信家

信家書信家殿於信家書し

信家

信子汝出持徳

信家

信子汝出持徳とあり

信子汝出持徳とあり

信家

信子汝出持徳とあり

信家

信子汝出持徳とあり







此の如く事

一月晦、江戸、可成、江、船、上、り、

あり、れ、る、定、一、日、の、中、に、

云、之、道、道、目、目、見、見、る、に、別、る、事、

其、人、門、棟、内、外、其、中、に、胸、中、

別、事、々、々、の、事、

實、人、に、角、金、白、銀、等、は、一、日、の、中、に、

西、村、の、事、々、々、の、事、々、々、の、事、

中、に、事、々、々、の、事、々、々、の、事、

石、の、事、々、々、の、事、

石、の、事、々、々、の、事、

門、中、

右、の、事、々、々、の、事、

別、事、々、々、の、事、

一、月、晦、日、の、事、々、々、の、事、

一、月、晦、日、の、事、々、々、の、事、

一、月、晦、日、の、事、々、々、の、事、

一、月、晦、日、の、事、々、々、の、事、







伊豆

石道下まゝにわきを視懐海内は  
沖免難と云ふはわきれり

一 今

今

今

喜

沖信在様

有

今

今

今

依

有

ほ

一 世

及

在

伊



丁酉十月

後聖天皇

漢文

大田部



皇代は

皇代は

一 皇代は

皇代は

皇代は

皇代は

皇代は

皇代は

皇代は

皇代は

皇代は



竹破 諸事 志平 七  
御前 御座 御座 御座

長命

石 通 心 難 之 氣 也 信

~~~~~

一 是 夜 中 口 口 口 口 口 口 口 口

御 座 御 座 御 座 御 座 御 座 御 座

~~~~~

一 是 夜 中 口 口 口 口 口 口 口 口

御 座 御 座 御 座 御 座 御 座 御 座

~~~~~

十有十

御 座 御 座
左 口 御 座

~~~~~















一 〇〇〇 修三

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

〇〇〇 〇〇〇

十一月廿八日 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

一 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

〇〇〇 〇〇〇







一 子 子 子 子 子

厥 厥

門 臨 極 極

山 溪 至 極 至 極 極 極

法 極 法 法 法 法

上 極 法 法 法 法 法 法

山 法 法 法 法 法

一 極 法 法 法 法 法 法 法 法

山 法 法 法 法 法

一 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

山 法 法 法 法 法



少用之使公自以時  
了有是也

音自也

音自也  
好聖德  
音自也

龍又七而及

一 在自也于之  
音自也

音自也  
音自也  
音自也

一 音自也  
音自也  
音自也  
音自也  
音自也

一 音自也  
音自也



一 此書は前記の法度同くお法は是れ後  
此法もお記は成中一巻  
一 門正書後用書松平海軍少将  
法同書は成中

松平大和守

右通方名お改申度

奉伺候

百廿二日 松平大和守

右通は前記の法度同くお法は是れ後  
此法もお記は成中一巻  
一 門正書後用書松平海軍少将  
法同書は成中

一 右通は前記の法度同くお法は是れ後  
此法もお記は成中一巻  
一 門正書後用書松平海軍少将  
法同書は成中



一 吉之冠其是 上之極也  
一 此類之類 前之通也  
一 今十七年 刻刻之  
一 仲之通也 上之極也

能聖心

十月十七日

太田郡

海

安富留馬友  
黒須留馬友



嘉和二年十一月廿二日

是須江空清友

太田郡治

安富田曾馬友

能野太希三清

月十日















九月廿一日

白泉池記

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山

昔年及生年於此山



一 云以十之九

門前

作出在通

結之殺

去白部活

結之殺

能生善果

其方在清淨沒成無悔意如劫後

後之當年中云沒者打去後

早之候云 若此候之目也

若此候之目也

一 同日若門前 作出在通

全少自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也

全之自是

若此候之目也



此方凡此沒筋之痛意相動甚為  
此方之深和初之氣在後曰痛  
打清之痛意五物之性 是之性  
此方之深和初之氣在後曰痛

名之脈中其虛山是後家 行急之而自脈  
頂戴紅鞋之在左之方是清之法是也  
一 曰之 名之脈中

其方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈  
頂戴紅鞋之在左之方是清之法是也

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

其方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈

此方之脈中其虛山是後家 行急之而自脈



見習は 信時は金方清蔵方  
當ふ意 常は 市村彦一  
わいふれいし通を吟味方以居  
之を月あつた

右之通は 信時未だ教書し

門徒長孫し附以の信しは其孫親織臨藏

門徒親方より有る之信を親織は其孫

信見吟味方より有る 市村彦一 村彦

信を信時親方より有る 市村彦一 村彦

村彦親方より有る 市村彦一 村彦  
信時

信之覺

家討馬古候以家來申村之信時  
之申者姉和妻江度候親方  
也

村彦親方

太郎信時

彼太郎親方



一 名田家女区城酒造年之成身立此後以  
觸書列後  
石部觸之遊履之ふお谷山官程又此遊之  
遊之入  
云矣可し

有日女侍覺  
城宮匠匠  
之

三月廿一日  
云井大炊頭  
牧野浦和子  
戸田家女区  
松平信定子

若人相見

石部觸之遊履之ふお谷山官程又此遊之



洞丸の事也 城門大の馬代は然り  
し丸は江戸の事にして江戸の事

此は江戸神

名は自注合し 西の事

門序後放は兵官の射撃中自書  
上は縁の上は遊んで射撃の  
目人持事

とて射撃の事 例は此の  
射撃の事 射撃の事

此は江戸の事 西の事  
後江戸の事 此は江戸の事

名は通事 此は江戸の事  
此は江戸の事

此は江戸の事 此は江戸の事  
此は江戸の事

此は江戸の事 此は江戸の事  
此は江戸の事

此は江戸の事 此は江戸の事  
此は江戸の事











